

平成29年度 県・市小教研学習指導改善調査【結果分析】第4学年国語

1 調査結果の分析

(1) 読み取り・資料活用・選択について (①～⑥)

ア 資料を読み取る力・・・(①～③)

①の正答率は79.3%、②の正答率は85.6%である。インタビュー前後の回答を読み、その回答に応じた質問を選択する問題である。昨年度と同一の問題であるが、昨年度の正答率は、①85.0%、②91.1%であり、下がっている。主な誤答例は、「車や自転車」といった言葉だけに注目して前後の文章をきちんと読まずに解答しているものである。前後の文脈を読み、適切な選択肢を選ぶことに課題があり、継続した指導の充実が求められる。

③の正答率は79.3%である。昨年度は92.9%であり、大きく下がっている。これは、問いにある「よい物を安く買いたいお客さんのための工夫」という視点からインタビューの内容を捉えることができなかつたためと考えられる。

イ 課題に沿って必要な事柄を選択する力・・・(④)

正答率は76.5%である。昨年度は48.9%であり、大きく上がっている。「スーパーマーケットができたころ」を紹介しなかつた理由を問う問題である。正答率が上がったのは、昨年度は理由を自分で説明しなければならなかつたが、今回は選択肢から選ぶ問題だったためであると考えられる。日々の授業でも、話題や目的に沿って必要な事柄を選択する活動を継続し、選んだ理由・選ばなかつた理由を意識的に言語化させていく必要がある。

ウ 文章を正しく表現する力(常体・敬体)・・・(⑤)

正答率は45.0%である。前年度の57.3%より大きく下がっている。資料から常体になっている文を見付け、敬体に直す問題である。主な誤答例は、推敲の観点としての文末表現(敬体と常体)に気付くことができなかつたり、問題の意味を理解せずに文章を書き写すだけだったりして解答しているものである。敬体と常体の使い方、推敲の観点の指導の充実や、書いた文章を友達と読み合ったりする活動を意図的、計画的に設定することが求められる。

エ 話題に沿って必要な事柄を選択する力・・・(⑥)

正答率は87.6%である。自分の立場を決めて、必要な事柄を選択することは相当数の児童ができています。一方、それぞれの立場での話と取材メモを対応させることができなかつた誤答傾向が見られる。適切にメモをとり、内容を整理する指導の充実が求められる。

(2) 記述問題について (⑦～⑩)

⑦は紹介文の「終わり」の段落を書く問題である。⑧～⑩は読み取ったことを基にして、自分の考えを論理的に記述する問題である。指定された字数に達していない、超えていると⑧が誤答になり、⑨⑩がすべて無答となる。

ア 全体の構成を考えて記述する力・・・(⑦)

正答率は55.1%で、昨年度の64.2%を下回る。紹介文の組み立てを考え、「終わり」の部分を書く問題である。今年度は、出だしと結びの言葉を指定し、さらに「中」についての記述は穴埋め式にして考えやすいように出題したが、下回る結果となった。主な誤答例は、何について書かれたものかを取材メモの見出しを考えることができなかつたり、自分の選んだお店に合う取材メモを選ぶことができなかつたりして解答しているなどである。書きたい内容を考えながら必要な情報を取り出させたり、何について書かれた資料なのかをとらえさせたりするなどの指導の充実が求められる。また、体言止めがなされていない、選んだお店を丸で囲っていない等のミスも見られ、推敲などを通して、基本的なことを普段から意識させていくことも必要である。

イ 時間内に指定された字数で文章を記述する力・・・(⑧)

⑧は、指定された字数以上で文章を書こうとする意欲と、実際にどのくらい書けるかを見取る問題である。今年度の正答率は79.0%で、昨年度の75.5%より少し上回っている。何も書いていない無答は昨年度10.8%から今年度6.1%に、指定された字数で書けなかった誤答も昨年度18.5%から今年度14.9%になり、書こうとする意欲は高まってきていると考えられる。字数や時間の制限の中で書く指導の継続、書くことに抵抗感がある子どもに対する支援の充実が求められる。日常生活の中でも、子どもが書きたい意欲をもつような話題を設定し、書くことを積み上げる必要がある。そのためには、日々の授業や活動の中で「書く」活動を積極的に取り上げ、学年に応じた段階的な指導を心掛けていくことが大切である。

ウ 話題に沿って必要なメモを選択し、記述する力・・・(⑨)

正答率は、昨年度54.6%であったが、今年度62.1%となり、上がってきている。誤答としては、自分が選択した取材メモを適切に記述できていなかったり、「林さんの紹介文」を参考にしないで書いたりしていた。国語の授業で紹介文の書き方を学習するだけでなく、国語で学習したことを他教科等でも活用していくことが大切である。また、課題を把握できず、スーパーについての紹介文を書いている誤答もあった。問題文を読み返す、キーワードにサイドラインを引きながら読むなど、問われていることを正確に読む習慣を付けていく必要がある。

エ 段落を意識して記述する力・・・(⑩)

正答率55.3%と低い。⑩は、「始め(紹介すること)―中1, 2(工夫1, 2)―終わり(まとめ)」の4段落構成で記述することと、段落ごとの書き出しを一字下げで書くという基本的なことの両方ができて正答となる。そのために、正答率が低いと考えられる。誤答としては、段落は意識していても一字下げができていないものが多かった。また、中を二つに分けて書くことが難しく、段落が多すぎるものもあった。段落構成については、低学年から「始め―中―終わり」という基本的な文章構成を、書くことと読むことの両方で確実に理解させ、習得させる必要がある。さらに、中学年では組み立て表を活用しながら、「中」の内容のまとまりに分けて書く学習を繰り返し行う必要がある。

2 今後、重点的に指導してほしいこと

(1) 国語科の学習で

- 選んだ資料に合うように自分の考えを書いたり、メモや組み立て表を活用して書いたりする活動を、意図的、計画的に設定すること。
- 基本的な原稿用紙の書き方(段落や書き出しの一字下げや句読点の付け方など)の定着を図ること。
- 文末表現(常体・敬体)の統一や段落のまとまりなどに気を付け、目的に応じて文章を読み返す習慣を身に付けさせること。
- 「始め―中―終わり」の構成を意識し、字数や時間の制限の中で書く経験を積んでいくこと。
- 300字程度の文章を書く力を付ける活動を継続すること。

(2) 他教科等で

- 取材、見学、観察等の活動において、正しくメモを取ったり資料を読んだりして、必要な情報を選択し、文章を書く活動を取り入れること。
- パンフレットや図、表、絵、地図等の非連続型テキストに触れ、読み方を学習したり、目的に応じて文章を書いたりする活動を取り入れること。
- 日々の授業で、問題の意図や与えられた条件を正しくとらえて答える習慣を身に付けさせること。